

松山南高等学校 令和3年度「データサイエンスⅡ」ポスター(最終発表)評価用ルーブリック

○DSⅡのポスター(最終発表)について、2～4いずれかの評価をしてください。3の記載内容を標準的なレベルとします。
特に達成度の高い、または低い項目は、それぞれ5、1と評価してもよい。

	配点	領域	評価観点	(5～)4	3	2(～1)	取組評価
				標準的なレベル(3)を越えて達成できた	標準的なレベル(3)をおおむね達成できた	標準的なレベル(3)を達成したとはいえない	
1	5	P (問題)	課題発見/ 問題提起	自らテーマを設定し、課題を多角的な視点から取り上げ、具体的に問題を捉えられている。	自らテーマを設定し、そこでの課題を考え、問題を捉えることができた。	指示された問題を捉えることができた。 問題を捉えられていない。	
2	5		仮説の設定	データから課題の原因を掘り下げて考え、解決すべき課題と要因のつながりを特定し、仮説を述べている。	課題に対する仮説が述べられている。	仮説を述べているが根拠となるデータなどが述べられてない。 仮説が述べられていない。	
3	5	P (計画)	データ収集	問題を解決する適切なデータについて述べられており、分析の見通しを立て、適切で根拠のある計画を立てた。	問題を解決する適切なデータについて述べられており、計画の概略をつくることができた。	利活用するデータが述べられていない、または問題にあったデータ収集ではない。	
4	5	D (データ)	データ収集	切り口を工夫し、問題発見・要因特定・問題解決につながる多面的でかつ客観性の高いデータを適切に集めることができた。	問題解決につながるデータを集めることができた。	データが収集できなかった、または収集したデータが不適切であり、問題の解決にはつながらなかった。	
5	5		データ整備	問題解決に適するデータ軸や範囲を採用し、比率に加工するなどのデータ整備ができた。	属性や時間別に分解するなど、問題解決につながるデータ整備ができた。	収集したデータを整備することができなかった。(生データのままだ、または不必要なデータが混交している。)	
6	5		データの出典	データの出典が明記されており、公的な機関による信ぴょう性の高いデータが用いられている。	データの出典が明記されている。	データの出典が明記されていないか、信ぴょう性の低いデータが用いられている。	
7	5	A (分析)	データ分析① グラフ	データを視覚的に比較し、差異を見いだして客観的な評価を可能にするなど特徴がつかみやすいグラフが作成でき、分析に繋がるものである。	データを比較するのに適当なグラフやデータを視覚的に捉えることができるグラフを作成することができ、分析に繋がるものである。	グラフを作成しているが、比較の軸が一致せず、凡例や数値が読みにくいなど、データを視覚的に捉えることが難しく、伝えたいメッセージが明確でなく、分析ができるとは考え難い。	
8	5		データ分析② 統計的考察	問題やデータの背景を理解し、度数分布や相関係数など必要となる統計的概念と手法を考え、今までに習った統計の内容を適切に使っている。	度数分布や相関係数など今までに習った統計の内容を使っているが、表面的な理解にとどまり、データや問題の背景について理解できていない。	度数分布や相関係数など今までに習った統計の内容を使っておらず、データをグラフなどの視覚化した程度にとどまっている。	
9	5	C (まとめ)	問題解決のための アイデア	多角的な視点を持ち、効果を検証したりするなど、有効で実現可能なアイデア(結論)を述べている。	問題解決につながるアイデア(結論)を述べている。	具体的または実行可能なアイデア(結論)が提示されていない。	
10	5		結論	問題の意味を広く認識し、結論をもとにさらに広げようとした。結論を明確に説明できた。	結論を適切にまとめることができた。	不十分な点があるが、おおむね結論をまとめることができた。	
11	5	総合	興味・関心	課題への高い意識を持ち、研究テーマについて仮説と検証を繰り返しながら探究できている。結論を聞くのが楽しみな研究である。	新たな課題を発見するなど、関心を持って研究テーマに取り組むことができた。	仮説に対して一つの解答を出すにとどまるなど、進んで研究テーマを深めることができなかった。	
12	5		創意工夫	これまでの先行研究や他者の取組との比較を行って独自の提案をするなど、オリジナリティのある研究ができた。	データの切り口を工夫したり、自分なりに調査を行ったりすることができた。	データや分析手法に工夫が見られなかったり、既存のグラフの引用にとどまったりした。	
13	5		役割分担と 協力	自分の役割を十分果たすとともに、建設的な意見を出すなど、グループの研究に貢献した。	自分の役割はおおむね果たすことができたが、他のメンバーへの貢献は十分ではなかった。	自分の役割を果たせず、他のメンバーに頼りきりであった。	相互評価
14	5		発表	原稿に頼らず聴衆を意識したスピーチができ、分析結果と提言を共有することができた。	原稿を見ることもあるが、明確なスピーチができた。	終始原稿を見ながら発表したり、伝えたいメッセージが明確でなかったりする。	
コメント							計

/65

/65